

しゃぼん玉 だがしや楽校

にちじ：2011年11月6日（日）9:30～11:30

ばしょ：学童保育所しゃぼん玉クラブ・愛宕（山形県米沢市）

主催：特定非営利活動法人 学童保育所しゃぼん玉クラブ

2011年11月6日（日曜日）小雨のち雨

【しゃぼん玉だがしや楽校】

山形県米沢市で学童保育事業を行っているNPO法人“学童保育所しゃぼん玉クラブ”では、今年（2011年）も“しゃぼん玉だがしや楽校”を開きました。

“しゃぼん玉だがしや楽校”は、2008年に初めて開かれ、翌2009年は“ミニだがしや楽校”を行いました。保護者たちからの要望もあり、2010年には第2回目の“しゃぼん玉だがしや楽校”を開きました。それが好評だったこともあって、今年も開くことになりました。

“しゃぼん玉だがしや楽校”が開かれるようになった詳しい経緯などについては、昨年（2010年）の報告に記載していますので、今回は早速、今年の“しゃぼん玉だがしや楽校”の様子をお伝えします。

これまで好天に恵まれた“しゃぼん玉だがしや楽校”でしたが、この日は初めて雨が降るというあいにくの天気となり、開始式は屋内で行いました。

◎開始式

午前9時15分から始まった開始式では、はじめにNPO法人学童保育所しゃぼん玉クラブの奥山理事長より（写真）「当NPO法人は、“子供第一義”を掲げ、地域貢献を目的に、社会福祉事業の展開、地域コミセン事業への参加、老人ホーム等への貢献活動、だがしや楽校の定期的開催を行っています。また、保護者参加のイベント充実、祝日開所、土曜日・夏休みなどの7:30～19:30開所によりサービスの充実を図っています。きょうの“だがしや楽校”の趣旨はそこに



あります。きょう1日、よろしくお願ひします」と挨拶がありました。

続いて、米沢市議会議員であり、昨年度まで学童保育促進議員連盟の会長でもあり、お孫さんがしゃぼん玉クラブに通っている小島卓二氏より「きょうの“だがしや楽校”開催、ご苦勞様です。保護者の皆様のご協力があって開催できたものと思います。3月11日の東日本大震災以降、被災地では“絆”をモットーに、明日に向かってがんばっています。きょうの“だがしや楽校”では、“絆”を大切に、思いっきり楽しんでください」と挨拶がありました。

次に、今年度からNPO法人学童保育所しゃぼん玉クラブの理事に就任した我妻清司氏（米沢市愛宕コミュニティセンター長）より「きょうは、おとうさん・おかあさんたちと共に、皆さんと仲良く楽しみたいと思います。よろしくお願ひします」と挨拶がありました。

そして、児童代表2名より（写真）「これからボクたち私たちが楽しみにしていた“だがしや楽校”を始めます。懐かしい昔遊びや手作りコーナーなどがあり、おみせ屋さんになったり、遊びの先生になったりして、がんばります。皆さんいっしょに楽しみましょう」と挨拶があり、みんなで“マル・マル・モリ・モリ!”を歌い、氣勢を上げたところで、開始式は終わりました。



この日は雨模様の天気になりましたので、写真のように、屋外のおみせはブルーシートで覆いました。



また、米沢市立愛宕小学校としゃぼん玉クラブ愛宕を結ぶ横断歩道では、ボランティアの保護者の方たちが、安全指導・誘導を行っています。

このような支えがあって“しゃぼん玉だがしや楽校”は開催できました。



それでは、おみせをご紹介します。はじめに、屋外のおみせです。

▼わたあめ



みんなが大好きの“わたあめ”。“しゃぼん玉だがしや楽校”では、子どもたちが作った“わたあめ”を振る舞っているのが特徴です。行列ができるほどでした。



▼玉こんにやく



山形のイベントには欠かせない名物・玉こんにやくは“しゃぼん玉だがしや楽校”でも大人気です。ただし、“しゃぼん玉だがしや楽校”の玉こんにやくは、子どもたちも食べやすいようにダシ醤油を使い、写真のようにスルメがタップリ入っています。

地域の人たちも買ってくださいましたので、完売しました。



完売直前、スルメを目当てに来たお子さんまでいました。味が抜けたスルメですが、やわらかくなって、子どもにとっては、美味しいかも・・・。

▼飲み物



玉こんにゃくの隣りが飲み物のおみせです。お茶、ジュースのほか、ラムネも販売しています。

▼チョコバナナ



こちらも大人気、チョコバナナのおみせです。あまりの人気ぶりに“ジャンボ・チョコバナナ”が登場！ 予約が出るほどでした。



おみせ番の子どもたちが、釣り銭を計算する風景も見られました。算数の時間です。



子どもも大人も買っていき、見事に完売しました。

▼八百屋さん



しゃぼん玉クラブに通う児童のお家が八百屋さんということで、この日は出張八百屋さんです。カットリンゴが飛ぶように売れていました。

ここまで屋外のおみせをご紹介します。

ところで、写真をよく見ますと、多くの写真では子どもたちがおみせ番をしています。中には大人がおみせ番をしている写真があります。

“しゃぼん玉だがしや楽校”では、おみせ番を30分毎に交代しました。この内、10時からの30分間は、大人だけがおみせ番を時間です。このように交代することで、子どもたちは、おみせ番というお仕事をしたり、ほかのおみせを回ったり、いろんな遊びができた、買い物やクジ引きをすることができました。これは本当に良いやり方です。全国の“だがしや楽校”仲間の皆さんにも参考にさせていただきたいと思います。

オッと、スポ少の子どもたち(写真)が参入してきました。ますますにぎやかになった“しゃぼん玉だがしや楽校”であります。



引き続き、屋内のおみせをご紹介します。

▼豚汁



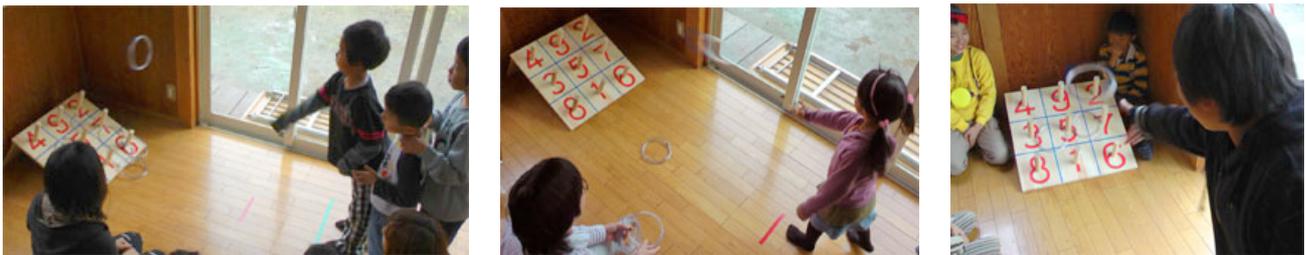
“しゃぼん玉だがしや楽校”定番・豚汁のおみせです。屋外のおみせでしたが、雨天のため、屋内となりました。ちょっと肌寒くなったこの日は、あったか〜い豚汁は最高です。

いよいよ、遊びのおみせのご紹介です。

▼輪投げ



輪投げは“しゃぼん玉だがしや楽校”では欠かせない遊びのひとつです。



小さなお子さんから高学年の子どもたちまで楽しく遊んでいます。輪が入った分だけ、駄菓子をゲットできます。



▼めんこ



昔遊びも屋外の予定でしたが、雨天により、屋内の一角で、めんこ遊びだけ開かれました。どういわけか、小さなお子さんに人気でした。

▼プラバンアクセサリー



プラバンアクセサリーは各地の“だがしや楽校”で見ることが出来る遊びですが、“しゃぼん玉だがしや楽校”のプラバンアクセサリーは、ひと工夫が見られます。穴をあけ、糸を通したところに、ビーズを付けることで、さらに可愛いアクセサリーになりました。



▼ビー玉ごま



厚紙とビー玉を使った遊びです。厚紙に好きなように絵を描きます。その厚紙を丸く切り抜く、真ん中も丸く切り抜く、そこにビー玉を付けます。これで、ビー玉が芯になったコマの出来上がりです。





▼ストロー飛ばし



ストローでつくる吹き矢のような遊びです。小さなお子さんでも楽しそうに飛ばしていました。



ここまで、遊びのおみせをご紹介しました。

私が“しゃぼん玉だがしや楽校”の遊びのおみせで感心するのは、輪投げを除いて、ほかのおみせは昨年と異なる遊びだったことです。しゃぼん玉クラブでの遊びの広がりを感じました。

また、ほかの“だがしや楽校”でも見られるお馴染み“プラバン”では、ビーズを付けて、さらに可愛いアクセサリーにしていました。ほかでは見られないちょっとした工夫です。

何気なく遊んでいる感じですが、ここまでの準備・創意工夫をヒシヒシと感じます。素晴らしいです。

▼木の实クラフト

先にご紹介したように、今年度からNPO法人学童保育所しゃぼん玉クラブの理事に就任した米沢市愛宕コミュニティセンター・センター長の我妻さんが、木の实を使って花を作る遊びなどを、子どもたちに紹介していました。



▼駄菓子屋



“しゃぼん玉だがしや楽校”でも駄菓子屋さんは大繁盛。子どもたちだけでなく、保護者や指導員の人たちが交代でおみせ番です。ここでも、代金を、計算機を使って計算するお子さんの姿が見られました。



また、少しでも売上アップにつなげようと、行商も行っていました。



▼クジ引き



ドキドキワクワク、クジ引きのおみせです。空クジなしの特賞から3等まで。特賞はチョコバナナ1本。特賞が出ますと、大きな鐘の音が響き渡ります。



◎餅つき

“だがしや楽校”が終わった後は、恒例の餅つきです。



おとうさんたちががんばった後は、子どもたちが順番に餅つきしました。





↓おとうさんの見事な餅つきぶりの、周りからは思わず拍手です。



つきあがったお餅を臼から持ち上げる子どもたちですか、思っていたより物凄く重くてビックリしていました。(↑右)



お餅は、納豆餅・あんこ餅・きなこ餅にして、みんなで食べました。

《振り返り》

途中でも申し上げましたが、子どもたちも、保護者のおとうさん・おかあさんも、指導員も、皆さんが、時には遊び、時にはお仕事をし、いっしょになって楽しんでいました。こういうのを全員参加と言います。とにかく、サッと見ただけでは、誰が指導員で、誰が保護者なのか、わからないほどでした。ですから、小さなお子さんから、ご年配の方まで、地域の人たちが大勢集ったのです。

遊びのおみせも毎年工夫されています。

このような素晴らしい“だがしや楽校”を開くことができるのも、普段の活動がしっかりしているからだと思います。

例え、1日だけのイベント型の“だがしや楽校”だったとしても、日常の活動がしっかりしていなければ、この日のような“だがしや楽校”を開くことはできません。日常の活動の積み重ねがあったからこそ、出来たことなのです。

“子供第一義”を信条にしている日常の活動によって、学童保育所しゃぼん玉クラブは、保護者との信頼関係を築いてきました。地域との関係も築いてきました。

その築いた関係を、みんなで見せ合い、確認し合う場が、この日の“しゃぼん玉だがしや楽校”とも言えます。

“しゃぼん玉だがしや楽校”が、米沢市西部コミュニティセンターのイベントや、米沢市児童会館のおまつりでも開かれているのは、それだけ米沢市内に於いて高く評価されている証です。

この日の“しゃぼん玉だがしや楽校”は、本当に素晴らしい“だがしや楽校”でした。

企画・制作・編集・文責

山口充夫

だがしや楽校コーディネーター